

公民館だより なかがわ

第481号

令和4年12月1日

発行 中川地区公民館

TEL. Fax : 679-2501

第38回中川福祉村文化産業まつり

11月5日(土)、6日(日)の2日間、第38回中川福祉村文化産業まつりが開催され、多くの方に来ていただきました。昨年同様、飲食を伴うものを取りやめ、消毒、換気等はもちろん、入口への導線を一方通行にするなど感染対策をしっかりとした開催となりました。ご来賓として、松田会長会会長よりご挨拶を頂きました。また、横戸市長よりメッセージを頂き、多くの地区民のふれあいの場となって文化への理解が深まり、産業が活性化され、地域の絆がより一層強くなる事への期待のお言葉をいただき、このような状況の中でも、やってよかったと大変うれしく思います。

初日開会式では、平成上山藩小銃大砲隊の祝砲を合図にテープカットが行われ、公民館前では金谷の野菜販売、トレーニングセンターの中では、農産物品評会や、中川地区民、各施設・各学校の素敵な作品がたくさん展示されました。また「大抽選会」もたくさんの方に来ていただき、楽しんでいただく事ができたのではないのでしょうか。地区民の方々から提供していただいた品物でのバザーコーナーも大好評となりました。2日間、準備から後片付けまでお手伝いいただきました、多くの関係者の皆様、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。



女性学級きらい

11月4日(金)第8回女性学級きらいは、会員15名の参加で「フラワーアレンジメント」を開催しました。「中川福祉村文化産業まつり」に展示する作品ということで、講師であるつかさ花店さんより、いつもよりもたくさんの種類のお花と器を準備して頂きました。先生に手ほどきを受けながら、それぞれ個性的な器にバランスを考えながらお花を飾っていき、とっても素敵な作品が出来上がりました。当日も先生より並べて頂き、さらに素敵な展示となりました。



単発講座「第2弾マクラメ編み」

10月28日(金)単発講座「第2弾マクラメ編み」の最後の3回目が開催されました。大物作りの終盤に差し掛かっていて、いつも以上に皆さんもくもくと編んでいました。出来上がった方もいて、達成感のあるとても素敵な作品となりました。完成までもう少しの方がほとんどなので、宿題と追加講座にて完成します。完成品はまた館報にて披露したいと思います！



山形県へ要望書提出！

11月7日（月）、山形県庁において、小林県土整備部長以下7名の臨席のもと、遠藤県議の案内で、松田会長、齋藤副会長、鈴木高野地区会長、事務局の4名で訪れ、主要地方道白石上山線の高野地区内交差点の歩道拡幅改良工事及び交差点内信号柱の移設等について要望書を提出してきました。

昨年に引き続き、県の担当部署トップへ要望内容等を説明し、現状は確認しており、来年度予算はまだ確定していないが、前向きに検討したいとの回答がありました。継続して要望することが改めて大事だと感じました。



第2回自衛消防訓練

11月7日（月）「1階図書室のストーブが異常燃焼し、周囲の可燃物に引火し延焼」という設定で、第2回自衛消防訓練を行いました。今回は、グラウンドゴルフ愛好会の会員さんにも参加して頂き、消火訓練が行われました。館長より、火事を出さないことはもちろん、日頃からの訓練と心がけが必要との助言をいただき、改めて訓練の大切さを実感いたしました。

皆様も家庭での自主訓練や消火器の点検等を行ってみてはいかがでしょうか？これからますます寒くなりますので火の取り扱いにはくれぐれもご注意ください。



ウォーキング教室反省会

11月15日（火）中川地区のウォーキングガイドの石井さんをお迎えし、会員14名の参加でウォーキング反省会が開催され、多くの感想・意見を出していただきました。今年度はコロナ禍の中でも、楽しめる計画を立てられたことで、各地域の歴史等を楽しんでいただけたようです。来年度も皆さんの意見をもとに計画を立て、一緒に楽しく健康増進を目指してウォーキングが出来ればいいなと思います。石井さん、会員の皆さん、ありがとうございました！！



粋いき倶楽部

11月22日（火）第7回粋いき倶楽部は「芸術鑑賞」で、午前中は、ムービーオンで『天間荘の三姉妹』を鑑賞しました。東日本大震災に向き合った漫画を実写化した映画で、生と死、愛するものたちとのつながりをテーマとし、ほっこりとした笑いもありとても素敵な作品でした。会員の皆さんからも「よかったあ」「感動した～」との声をいただきました。午後からは、国指定重要文化財の旧済生館本館である『山形市郷土館』を見学してきました。明治初期の擬洋風建築としては、日本の最高傑作と言われており、館内には山形市の医学発展に大きな功績を残した医師ローレツ博士の資料や郷土史関係資料などが展示されていました。当時の写真などもたくさんあり、皆さん熱心に見ていました。



たくさんのなめこが生まれました！！

今年4月に、中川小学校とのふるさと学習事業「里山ウォーキングときのこ作り体験教室」で、3年生がウォーキングとなめこの植菌をしました。なめこが生えるまで1年かかります。そこで、現在の4年生が昨年の4月に植菌したクルミの木にたくさんのなめこが生えたので、館長より小学校に運んでもらいました。最初はぬるぬるとしたなめこの感触に苦戦していたようですが、最後は、「お味噌汁に入れて食べた～い！」などと、3年生の皆さんが楽しく収穫してくれました。



市福祉活動功労者表彰

11月3日(木)、上山市福祉大会・市ボランティアフェスタ2022が、三友エンジニア体育文化センターで開催され、中川地区から、民生児童委員の岡崎とし子さん(小倉)、石黒清さん(蔵王)が市福祉活動功労者として表彰されました。地域福祉の為にご尽力いただき、本当にありがとうございます。

鮮やかな「ざる菊」

公民館前が菊の花で華やかになりました。中川地区に所縁のある 山川 正さんのご厚意で、今年も中川地区公民館と中川農業者等トレーニングセンター前に「ざる菊」を置いてくださいました。鮮やかな色が目をひき、来館者を楽しませてくれました。山川さん、本当にありがとうございます！



募集中!

詳しくは、地区回覧チラシをご覧ください！

体験スポーツ教室

「トランポピクス」体験会

日時 12月13日(火) 午前10時～11時
場所 中川地区農業者等トレーニングセンター
参加資格 中川地区民 24名
(定員になり次第、受付終了となります)
内容 一人用のトランポリンで
簡単なエアロピクスをします。
参加料 無料
持ち物 内ズック・飲み物・タオル・マスク

詳しくは、小学校配布
チラシをご覧ください！

わんぱく広場

「そば打ち体験教室」

日時 12月27日(火) 9時半集合
場所 中川地区公民館 集会室
参加資格 中川地区の小学生と大人 10組限定
(定員になり次第、受付終了となります)
内容 500gのそばを打ちます
参加料 500円
持ち物 小学校より配布のチラシをご覧ください。

詳しくは、市報に入るチラシをご覧ください！

「出前スポーツ教室」開催

定員：各12名 場所：中川地区公民館 集会室

1月24日(火)
10時～11時

シャフルボード

持ち物：内ズック、飲み物、マスク

2月10日(金)
10時～11時

ストレッチヨガ

持ち物：ヨガマットかバスタオル
内ズック、飲み物、マスク

2月28日(火)
10時～11時

足腰元気体操

持ち物：内ズック、飲み物、マスク



行事予定

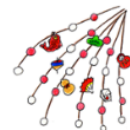


12/1(木) 市報・館報
三者会、中川地区会長会
公民館運営協議会
12/2(金) 第9回そば打ち教室
12/5(月) 中川地区食改「伝達講習会」
12/6(火) ボランティアによる大掃除
12/8(木) 中川地区表彰委員会
中川地区会長会忘年会
12/9(金) 単発講座「初心者パッチワーク教室」
12/11(日) わら打ち(しめ飾り)
12/13(火) 体験スポーツ教室「トランポピクス」体験会
12/16(金) 第9回パソコンクラブ
12/18(日) しめ飾り作り
12/23(金) 第9回女性学級きらり
12/27(火) わんぱく広場「そば打ち体験教室」
12/28(水) 仕事納め

詩吟教室(火曜日) 12/6、13、20
ピンポン愛好会(木曜日) 12/1、8、15、22
スポーツ麻雀愛好会 12/3、24(土曜日)
12/15(木曜日)



行事予定



1/4(水) 仕事始め
市新年祝賀会
1/5(木) 中川地区会長会
公民館運営協議会
1/6(金) 市報・館報
中川地区新年祝賀会
1/10(火) 第10回そば打ち教室
第2回福祉村だより編集委員会
1/11(水) 第8回粋いき倶楽部だんご木飾り
1/13(金) 第10回パソコンクラブ
1/17(火) 第10回女性学級きらり
1/24(火) 出前スポーツ教室「シャフルボード」
1/27(金) 雪と遊ぶ会

詩吟教室(火曜日) 1/10、17、24
ピンポン愛好会(木曜日) 1/5、12、19、26
スポーツ麻雀愛好会 1/7、14(土曜日)
1/26(木曜日)

おらほの中川へ地域の話題シリーズ 第百七十弾

「昭和考、問わず語り（その22）」

甲石地区 高橋 正之

これまで昭和改元時の国勢や世相を述べてきましたが、ここからは戦争の遠因ともなった国際関係や国内の政治状況について紹介していきたいと思います。

日本の経済力は、世界六位だった

今日、国の経済規模は豊かさは、国民総所得（GNI）によって表すが、日本はアメリカ、中国に次ぎ世界第三位の経済大国であり、ドイツ、フランスを凌ぐ国家となったが、昭和改元時（大正十四年）の日本の経済力は、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリアに次いで第五位であった。ソ連は、指数を公表しなかったため単純に比較することは出来なかったが、日本を上回る財政規模だったと思われるので、実質第六位だった。しかしアメリカとの差は、およそ七分の一であつた。

国の予算は、軍事費比率が高比率

国家予算の使い道は、大正十四年度の場合、一般会計約十五億円の四十五%は官吏の給与などの行政費、三十%弱が軍事費、約二十%は日露戦争の戦費や関東大震災復興費調達のための外国債を中心とする国債の返済費用、社会保険費が約九%だった。健康保険制度は大正十一年に発足したばかりで利用者はまだ少なく、社会保険費の多くは官吏や軍退職者の恩給（年金に相当）であつた。平成十七年度の一般会計約八十九兆円の内訳、社会保険費二十四%、国債費二十二%、地方財政費二十%、公共事業費十一%、防衛費六%弱と比較すると、国民生活に対する国の役割がいかに変化してきたかがわかる。昭和改元時の軍事費比率の大きさが目立つ。有力国中ではダントツの一位という高比率であつた。日本の軍備の規模は、国力的には相当無理をしていたということがよくわかる。

国際関係の主軸は国際連盟とアメリカ

昭和改元時の国際関係は、国際連盟とアメリカが主軸であつた。第一次世界大戦（大正三年～大正七年）に英米側で参戦した日本は、本格的な戦闘に巻き込まれないまま戦勝国となった。講和条約に基づき、四十二か国が加盟して大正九年国際連盟が発足した。日本は、イギリス、フランス、イタリアとともに常任理事国となった。日本の国際的な地位は飛躍的に向上した。国際紛争解決の手段としての戦争を否定した国際連盟の指導的立場に立ったというところから、国際協調が日本外交の基本方針となった。

アメリカは、アメリカ大陸以外の問題には関与しない「モンロー主義」という国内の風潮のため連盟には加盟しなかった。しかし、第一次大戦を機に世界経済の中心となったことを背景に、第一次大戦の惨禍を踏まえた国際協調の進展と軍縮の実現のため積極的に行動した。

アメリカは、大正十年から十一年にかけて「ワシントン会議」（写真①）を主催し、太平洋地域の現状維持を定めた「四か国条約」、中国への植民地侵略をやめることを定めた「九か国条約」、主力艦（戦艦、巡洋艦、空母など）の削減を定めた「ワシントン海軍軍縮条約」を成立させた。日本は、これらすべてに加盟し、国際協調と軍縮という世界風潮に同調していた。筆者はこの軍縮への同調のうちに、政府と軍部の対立へと発展することになる。制限していたことなどから良好とはいえないが、露戦の戦費や関東大震災の復興費として巨額の借金もアメリカの金融界にあり、アメリカに強い態度を示すことは難しかった。

中国との関係は非常に複雑だった

中国は、当時軍閥政権や共産党政権が出現して内戦状態だったが、日本を含む主要国は蒋介石が率いる中国国民党の政権（中華民国）を正統政権として承認していた。また、天津や上海には日本の紡績会社がいくつかが進出。さらに中国のエリート層には日本留学経験者が多く、軍人出身の蒋介石も日本陸軍に留学した経験があつた。しかし、日本が第一次大戦勃発直後、欧米諸国のアジアへの関心が弱まっていたことを背景に、中国権益の維持強化をはかる「二十一カ条要求」を行い、軍事力を背景にそのほとんどを認めさせた。それ以来中国では反日感情が強まり、しかも陸軍は、満州権益の維持のため、国民党政権と対立していた満州地域の軍閥政権（張作霖政権）に軍事援助を行っていた。

ソ連とは、国交回復と同時に共産主義流入を警戒

ソ連とは、樺太で国境を接していたうえ、オホーツク海での漁業問題などもあったので、大正十四年に日ソ基本条約を結んで国交を開いた。しかし、共産主義流入の警戒感を強め、同条約締結とともに治安維持法を制定した。（古川隆久著「昭和史」ちくま新書より。写真も同じ。）（次回は、国内の政治状況について記述する予定です。）

（写真①）

